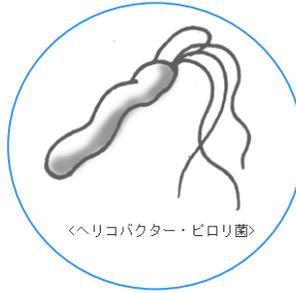


平成 23 年 8 月 1 日

胃炎、胃潰瘍、胃がんは日本人に多い病気ですが、その原因として注目されているのが「ピロリ菌」です。日本人の2人に1人はピロリ菌に感染していると報告されていますが、適切な除菌療法によって体内から除去することができます。



今回は、「ピロリ菌」についてお話をしたいと思います。

● 「ピロリ菌」ってなに？

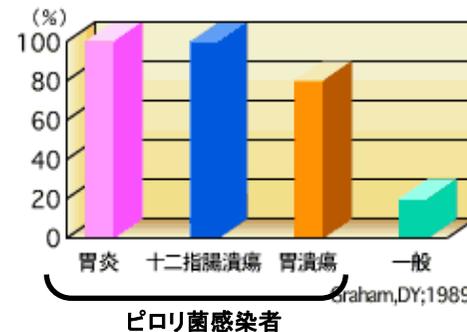
ピロリ菌の正式名は「ヘリコバクター・ピロリ」といい、多くの場合は口から体内に侵入し、人の胃の粘膜中に住みついている細菌です。胃の中は強い酸性なので普通の細菌は生きられません、ピロリ菌は胃の中にある尿素からアンモニアを作り出してまわりの胃酸を中和するため、胃の中でも生育できます。

● ピロリ菌に感染すると・・・

ピロリ菌に感染したからといって必ず胃潰瘍などが発症するわけではありませんが、ピロリ菌が胃を守っている粘膜を傷つけて胃酸の攻撃を受けやすくしてしまうため、胃炎や胃潰瘍を発症させる要因になります。

また、胃炎や胃潰瘍を発症した人の多くがピロリ菌に感染していることがわかっています。

疾患別の感染率



胃炎

ピロリ感染などにより、胃の抵抗力が落ちてしまったときに、胃が胃酸に耐えられず、炎症を起こした状態。

胃・十二指腸瘍潰

胃の粘膜の抵抗力が弱いときに、胃酸が胃や十二指腸の粘膜を溶かしてしまう状態。

胃がん

胃の組織に悪性の細胞（がん細胞）が発生する病気。最近の研究では、ピロリ菌の除菌により胃がんになる危険性が低下するという報告もされています。

● ピロリ菌の検査

胃潰瘍や十二指腸潰瘍と診断された方、再発をくり返す方などは健康保険で検査を受けることができます。検査方法には内視鏡を使って胃の中を見る検査と、呼吸や血液、尿、糞便などを使って検査する方法があります。

● ピロリ菌の除菌療法

ピロリ菌判定の検査でピロリ菌陽性と判断されると、ピロリ菌の除菌が行われます。胃・十二指腸潰瘍についてはピロリ菌の除菌療法が保険で認められています。潰瘍の再発が抑えられる、粘膜を保護する薬を飲む必要がなくなるなどの効果があります。薬を1回でも飲み忘れてしまうと成功率が下がってしまいますので、飲み忘れに注意が必要です。飲み忘れが心配な方は、1日分の薬が1シートにパックされた薬が一時療法（ランサップ）、二次療法（ランピオン）のどちらも用意できますので、受診時に申し出て下さい。

◆一次療法◆

ピロリ菌の除菌療法はプロトンポンプ阻害剤（胃酸を抑えて抗生物質の安定性を高める薬）＋抗生物質2種類という組み合わせの3つの薬を7日間、服用します。

プロトンポンプ阻害剤	タケプロン（ランソプラゾール） オメプラール（オメプラゾール） パリエット（ラベプラゾール） ネキシウム（エソメプラゾール）	} どれか1つ
抗生物質	サワシリン（アモキシシリン）、クラリス（クラリスロマイシン）	

7日間服用したあと、完全にピロリ菌が除菌されたかどうかの判定を行います。約70%の人は除菌に成功と言われています。除菌が成功した場合はピロリ菌の再感染率は低い(2~3%)と報告されていますが、胃癌や胃炎の原因はピロリ菌だけではありません。除菌後も胃癌が発見されるなどの報告もありますので、定期的に検査をしていく必要があります。一次療法に失敗した場合は、二次療法を行うこともできます。

◆二次療法◆

一次除菌のクラリスをフラジール（メトロニダゾール）に替えて、同様に7日間服用します。二次除菌では8~9割の人が成功します。

● 副作用について

薬を飲むことによって下痢や軟便、味覚異常などの症状が出る場合があります。症状が軽い場合は整腸剤などを一緒に服用することもできますが、ひどい腹痛や下痢が現れた場合はすぐに主治医に相談しましょう。また、二次療法ではアルコールを飲むと腹痛や嘔吐などの症状が現れることがあるので、治療中は飲酒を避けてください。

<参考> 胃潰瘍診療ガイドライン

武田薬品工業ホームページ <http://www.takeda.co.jp/pharm/jap/seikatu/pylori/index.html>

大塚製薬ホームページ <http://www.otsuka.co.jp/disease/pylori/>